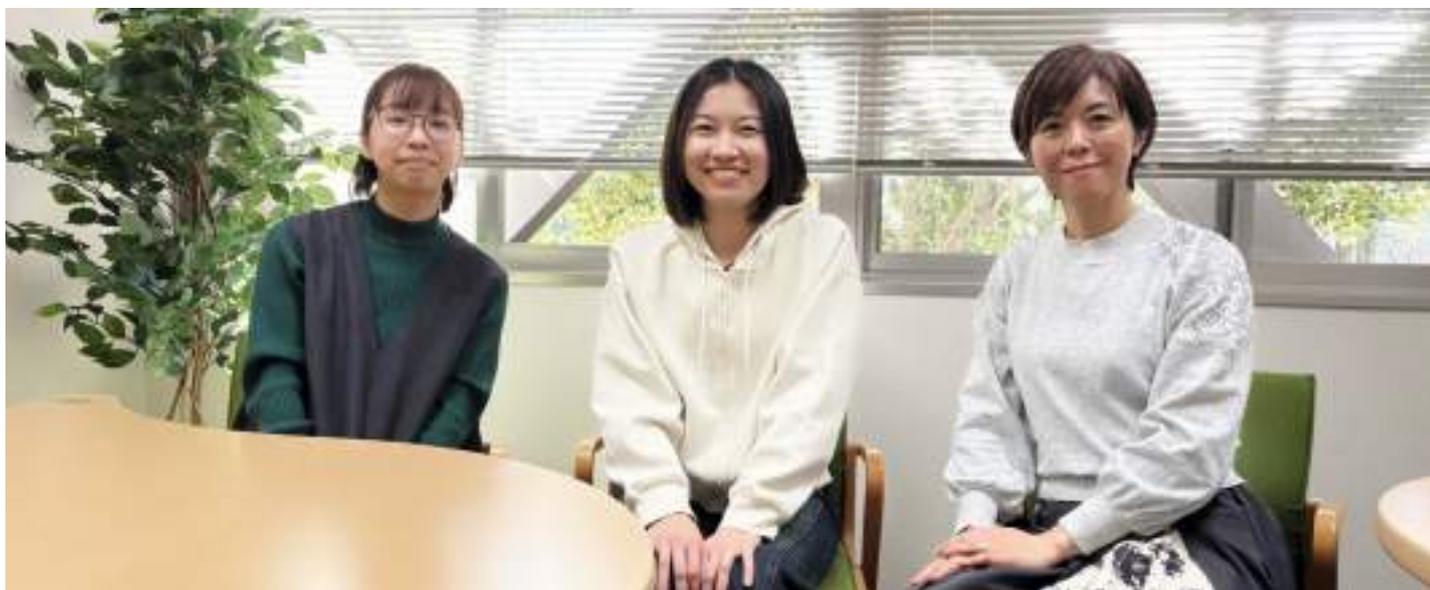


# 障がい学生支援室便り

2026, 1月号



## Interview

学生サポートサークルで活躍され、今年卒業する清水希々花さん(文学部4年)、平田千夏さん(教育学部4年)お2人にお話をうかがいました。

### サークルに入ったきっかけ

1年生のとき、授業内で先輩たちがサークル紹介をしているのを見て、要約筆記サークルの存在を知りました。当時はアルバイトを始めたばかりで参加できませんでしたが、2年生になってから改めて「大学の中でできるボランティアがしたい」と思い、見学を申し込みました。キャリアの授業で「ボランティア経験が大切」と聞いたことも後押しになり、思い切って参加したのがきっかけです。

### 入ってよかったこと

先輩や同級生とつながることができ、授業や試験の情報を聞けたことはとても心強かったです。また、学部や学年がバラバラなメンバーが集まっているので、普段かかわることのない人たちと話せるのも楽しい点でした。活動だけでなく、練習後におしゃべりをしたり、ご飯を食べに行ったりする時間もサークルの大切な魅力だと思います。

### 活動内容・印象に残っていること

練習では、タイピング練習や音声を聞きながら文字起こしを行います。YouTubeや講演会の動画を使い、再生速度を調整しながらコツコツ練習しました。入学式や卒業式などの式典前には、春休みや冬休みの時期に集まって準備を重ねたことが印象に残っています。



また、他大学との交流会に参加したことで、要約筆記以外にもさまざまな障がい学生支援の形があることを知り、視野が広がりました。



## サークル活動が将来にどう生きそうか

講演会や式典で字幕があることで「あるとこんなに便利なんだ」と実感しました。将来、人前に立つ仕事や多様な人と関わる場面で、この経験がきっと役立つと思います。実習の場面でも聴覚に配慮した支援の必要性を感じることもあり、サークルでの経験とつながっていると感じました。

## 後輩・これから入る人へメッセージ

知識やパソコンスキルがなくても全然大丈夫です。練習する機会はたくさんありますし、できることから関わるすることができます。「人の役に立ちたい」と思っている人には、ぜひ一度見学に来てほしいです。優しくて、話しやすいメンバーばかりの、和やかなサークルです。

## インタビューの記録と編集について

今回のインタビューは、UDトークを用いて録音を行い、その音声を ChatGPT で文字起こし・要約したものを記事にまとめました。

UDトークは、音声を文字情報として可視化する情報保障ツールで、聴覚障害のある学生の学びを支援する際に用います。また、ChatGPT、Gemini、NotebookLM などの AI ツールは、情報整理や理解の補助として、発達障害のある学生にとっても有用とされています。

支援室では、一人ひとりに合った学びへのアクセスを支える手段として、これらのツールを活用していきたいと考えています。

## Congratulations!

2025年12月6日、松下政経塾講堂で開催された「第6回 松下幸之助杯スピーチコンテスト」において、文学部4年の岩下唯愛さんが最優秀賞を受賞しました。「形だけの「共生」ではなく、本当の「誰も取り残さない」社会を目指すために」をテーマにスピーチされました。

車いすユーザーの岩下さんは、入学当初から学生支援室や中央ヘルパー事業所と連携し、合理的配慮を活用しながら、自分らしく前向きに修学しています。

### 選評

魂の籠もったパワフルな言葉で届けたスピーチでした。「文化・芸術という本来すべての人に平等なはずのものが、なぜ平等に手にすることができないのか。」ご自身の実体験に基づいた一言一言には深い説得力があり、社会の在り方を問い直す大きな力を秘めています。

自身の信念を曲げることなく、理想の実現に向けて真っ向から立ち向かおうとする熱量に満ちあふれた姿は、聴衆に深い感銘を与えました。自らの原点を忘れず、初志を貫き通そうとするその「素志貫徹」の精神を高く評価し、最優秀賞にふさわしいと判断しました。

## 応募のきっかけ

2025年4月から専攻・研究室を変更し、現代文化資源学コースに移籍しました。これまで教育分野で発信してきたことは知ってくださっている方も多かったのですが、専攻変更後に何を探究しているのかは、あまり知られていない状況でした。また、2022年から留学準備のため活動を休止していた期間が長く、SNSでの発信も止まっていました。

そこで、これまで私を知ってくださっている方や、これから知ってくださる方に向けて、形にできるものを探していたところ、Facebookで本コンテストの広告を見つけ、現在も探究を続けていることを発信する、良いきっかけになると考え応募しました。



当日の様子は YouTube で配信されています

## 受賞した感想

受賞を知ったときはとても驚き、最初は実感がありませんでした。しかし後日、YouTube配信を見てくださった方々から大きな反響があり、「目から鱗だった」といった感想もいただきました。それだけ社会にインパクトのある発信だったのではないかと感じ、今回の発信自体に大きな意味があったと受け止めています。応募時に考えていた「これまでの活動を発信する」という目的は、十分に果たせたと思っています。

## 今後の展望

まずは卒業論文を完成させることが第一です。2年生のときにハワイ大学へ留学していたため、来年9月に卒業する予定です。そのため、論文提出後も学部在籍期間があり、その時間を活かして海外視察の機会を探したいと考えています。また、学芸員資格の勉強も進めており、将来的にはコンサートホールの企画や設計に関わるアドバイザーとして活動できるようになることが目標です。

## 障がい学生支援室の主な活動状況

- ・ オープンキャンパス (8月2日)
- ・ 令和7年度 障がいのある (その可能性のある) 学生のための就職セミナー開催 (9月26日)
- ・ 令和7年度 熊本大学 FD・SD 講演会開催 (10月16日)
- ・ 九州地区国立大学法人 障害者支援に関する大学間連携 情報交換会参加 (10月24日)
- ・ 九州地区国立大学法人 障害者支援に関する大学間連携 プログラム研修会参加 (10月25日)
- ・ 令和7年度 障害学生支援実務者育成研修会参加 (11月6, 7日)
- ・ 令和7年度 車いす介助講習会開催 (11月27日)
- ・ 大学コンソーシアム熊本研修会参加 (12月23日)
- ・ SUN-Kuma (Supprt University Network Kumamoto) 活動 (月1回)

## 編集後記

2025年9月より、特任助教として障がい学生支援室に勤務しています。

支援室を利用している学生の皆さんは、一人ひとり異なる思いや困りごとを抱えています。

どのような学生生活を送りたいのかを一緒に考えながら、教職員の皆さまや支援に関わる方々と連携し、修学が円滑に進むようお手伝いできる日々を、大変ありがたく感じています。

今年度は、サポートサークルの皆さんの活動の幅をさらに広げていきたいと考えています。

「誰かの役に立ちたい」「支援に関心がある」という気持ちがあれば、質問からでも構いません。

ご関心のある方は、ぜひ下記までお気軽にご連絡ください。お待ちしております。

特任助教 / 公認心理師・臨床心理士 疋田 眞紀

熊本大学障がい学生支援室

tel : 096-342-2765・2766

e-mail : gag-sien@jimu.kumamoto-u.ac.jp